

新 ブドウ「シャインマスカット」の短梢剪定栽培における多収・早期成園化技術の確立 (H31~33年)

新 1 高品質で多収が可能な栽培技術の確立 (H31~33年)

新 2 早期成園化が可能な栽培技術の確立 (H31~33年)

背景ねらい

注目の新品種シャインマスカット



全国的に栽培面積が急増

消費者の人気も高く、高単価で取引

単価の良い時にたくさん売りたい

しかし...

新しく植えると
収穫まで時間がかかる

現在の畑で増収したい



高品質で多収が可能な栽培技術を確立

新植後早期に成園化できる技術を確立

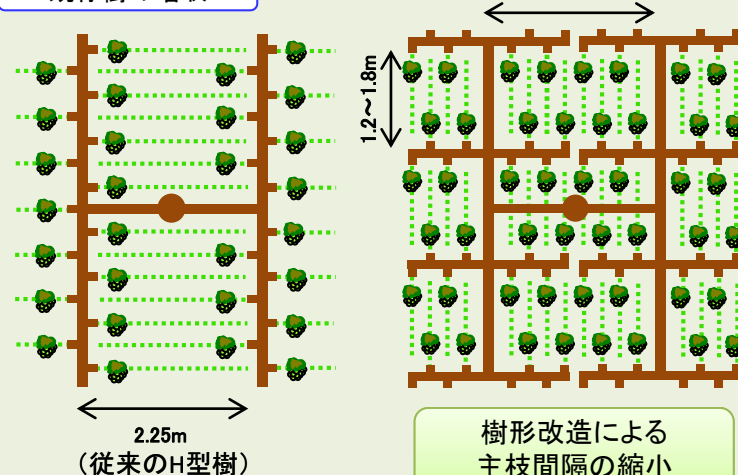
試験内容

①多収が可能な栽培技術の検討

現在の収穫量の1.5倍以上の増収
(目標収量: 2.3~2.7t/10a)

- ・樹形改造による新梢密度の増加
- ・主枝間隔の縮小 (2.25m → 1.2~1.8m)
- ・養分転流の解明
(新梢間の養分転流を調査し、適正着房数を検討)

既存樹の増収



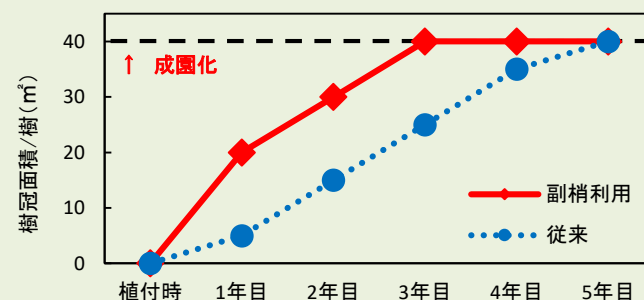
樹形改造による
主枝間隔の縮小

②早期成園化が可能な栽培技術の検討

一文字短梢の成園化までの期間を2年短縮
(目標期間: 新植後5年 → 3年)

- ・節間が短く発芽障害の少ない台木の利用
(188-08、グロワール)
- ・副梢を利用した樹冠拡大

樹冠拡大の検討



期待される効果

収量の増加 (従来の1.5倍以上)

未収穫期間の短縮 (2年)

県産果実の安定供給
山梨県ブランドの向上
農家の所得向上

